

## 研修報告

# 平成19年度 海外研修報告 (2) — 米国における高齢者施設の運営システムと特色 —

看護学部国際交流委員会

香月 毅史<sup>1)</sup>、渡邊 竹美<sup>1)</sup>、赤松 弥生<sup>1)</sup>、小池 武嗣<sup>1)</sup>

### 要旨

米国の高齢者施設の運営システムの違いと特徴について、海外研修における米国高齢者施設訪問で得られた知見を紹介する。訪問した3施設は、それぞれ現在の米国の高齢者施設の現状を反映した特徴を示していた。それらの3施設は、認知症高齢者を対象としたメモリーサポートを目的とした中間的療養施設、自立生活が可能で高齢者を対象に軽度の介護とアクティビティーなどのサービスを提供する生活支援施設、各種の高齢者用施設を集約したCCRC (Continuing Care Retirement Community) であった。理論に基づいた各種の療法によって個々の高齢者のQOLの維持を目指すだけでなく、高齢者のコミュニティを育て総合的な高齢者介護システムの構築を進めている米国の現状を知ることができた。

キーワード：Assisted Living, Nursing Home, Memory Support

### I. はじめに

本学部では、平成19年8月20日から27日の日程で米国ワシントン州のワシントン大学を中心とした医療施設の見学、研修を目的とした海外研修プログラムが実施された。参加者は看護学部の2～4年生18名と引率教員2名であった。

本研修は、参加者全員にとってワシントン大学を始め海外の医療事情や施設、設備を直接見聞し、スタッフや利用者、患者に接する貴重な機会となった。また筆者らは、委員会活動を通じて今回の研修プログラムの企画・運営に携わり、そのうち2名は引率者として同行の機会を得た。本稿では、研修プログラムのなかの高齢者施設に関連する事項について、現地で見聞したことを交え報告する。

### II. 高齢化をめぐる世界動向

国連人口推計によると現在までに高齢者従属人口(65歳以上)が14%を超える「人口高齢期」を迎えている国は、世界168カ国中日本を含め8カ国だが、2015年までには17カ国に増加すると見られている。さらに2050年までには世界の高齢者人口が20億人を突破し、先進国だけでなく世界中で高齢者人口の急激な増加が起こることが予測され、発展途上国を

含む世界の半数以上の91カ国が「人口高齢期」を迎えると考えられている<sup>1)</sup>。

高齢化に向けた世界の動きは1982年にウィーンで開かれた「高齢化に関する世界会議」に始まる。同年の国連総会では「高齢化に関する国際行動計画」が決議され、1992年の国連総会で「高齢化に関する宣言」、2002年の世界会議では「高齢化に関するマドリッド国際行動計画2002」が採択された。これらの計画では、世界的な高齢化の進展、特に今後予想される開発途上国での急速な高齢化を踏まえ、あらゆる部門のあらゆるレベルにおいて姿勢、政策および慣行を変更することを求めている<sup>2)</sup>。

米国は、日本に比べて高齢化は緩やかだが、それでも生産年齢人口(15-64歳)が従属人口(0-14歳、65歳以上)の2倍を下回るのは2015年以前と予測され、それ以降は「人口高齢期」に入ることが予測されている。

今回の研修で視察した米国の高齢者関連施設は、前述のような社会状況の中で、米国の社会や医療制度を反映したものとして存在している。以下に米国の高齢者施設の概要と視察した施設がその中でどのような位置を占めているのかを示す。

1) 看護学部

Ⅲ. 米国の医療制度と高齢者医療

米国は、先進国の中では唯一公的な国民皆健康保険制度のない国である。米国国勢調査<sup>3)</sup>によると2005年の段階で医療保険に入っていない人は、約4660万人(15.9%)に上る。ただし、65歳以上の高齢者を対象とした制度としては、アメリカ政府による公的な医療保険制度があり医療負担を一部カバーしている。1つはMedicareと呼ばれるもので65歳以上の高齢者または障害者を対象とする医療保険制度である。医療施設での入院医療サービスをカバーするpartA、医師による外来医療在宅医療サービスのpartBからなり、補助的的制度としてMedegap(個人負担をカバーする制度) Medicare Managed Care Program(民営の保険会社によるもの)がある。もう1つはMedicaidと呼ばれ、低所得者を対象とする救済制度である<sup>4)</sup>。

一般的に米国の高齢者向け地域医療機関は介護度の軽いものから順にIndependent Living(以下、IL)、Assisted Living(以下、AL)、Nursing Home(以下、NH)、Memory Support(以下、MS)の4種類、およびそれらを集約したContinuing Care Retirement Community(以下、CCRC)に区分される(表1)<sup>5)</sup>。

ILは自立生活が可能で高齢者を対象とした施設で、個々の居住スペース以外に共有スペースやコミュニケーションゾーンの確保、各種アクティビティーへの参加などQOLの確保を重視したサービスを提供し、ALは日常生活における簡単な介護を要する高齢者を対象とし、食事、入浴、洗濯などの軽度の介護、各種アクティビティーへの参加などのサービスを提供する。

NHは、医療を含む重度の介護を要する高齢者を対象とする施設で24時間体制の医療ケアを提供し、MSは、認知症などの症状を抱える高齢者を対象に、主に認知症介護のサービスを提供する。また、それらの施設を集約したCCRCは、同一の広大な敷地内で加齢と共に変化する健康状態に合わせ、その時々に必要なサービスの提供が可能である。しかし、IL、AL、NH、MSの施設が独立して運営されている場合には、入所者の健康状態の変化により転居が必要となり経済的な負担を伴う。しかし、CCRCでは、入所者の健康状態の変化に伴う追加的なコストが削減されるというメリットがある。このCCRCで提供されるサービスは、介護予防を目的とした運動プログラム(レジスタンストレーニング) から一般介護、

表1. 米国と日本の高齢者介護施設の形態

対象者	自立生活が可能で 高齢者	日常生活における簡単な 介護を要する高齢者	医療を含む重度の介護 を要する高齢者	アルツハイマーや認知症 などの高齢者
サービス内容	介護予防	居宅介護支援・訪問介護	一般介護	認知症介護
米 国	IL (Independent Living)		NH (Nursing Home)	MS (Memory Support)
	AL (Assisted Living)			
	CCRC (Continuing Care Retirement Community)			
日 本	一般住宅 保健福祉事務所	デイサービス	特別養護老人ホーム	
		ケア付き住宅	有料・軽費・養護老人ホーム	グループホーム
		高齢者有料賃貸住宅		

認知症介護までを含んでいる。

CCRCは、地価が安い大都市郊外やリゾート地に建設され、利用者に趣味活動やゴルフなどの活動型アクティビティーを提供するのが一般的であったが、現在は高齢者の知的欲求の高まりを受け、大学周辺に建設されるケースが増加しているという<sup>5)</sup>。このようなCCRCでは大学と提携して、利用者が生涯学習プログラムに参加したり、大学のレクチャーを受け持つこともあるという。米国内では14のカレッジリンク型のCCRCがすでに運営を開始し、西海岸では4つの大学が近隣のCCRCと提携を結んでいる。ワ

シントン大学もその4つの大学の中に含まれている。

#### IV. 研修で訪問した高齢者施設

今回の研修ではMS、AL、CCRCのそれぞれの区分に属すると思われる3施設、REGENCY AUBURN REHABILITATION、AEGIS OF REDMOND、およびEMERALD HEIGHTSを視察する機会を得た。訪問した3施設は、現在の米国の高齢者施設の現状を反映した特徴を示しており、それぞれの施設の概要は表2に示したとおりである。

表2. 視察した高齢者施設の概要

研修で訪問した施設	施設の種類	提供内容	スタッフ	財政援助	ベッド数	環境
REGENCY AUBURN REHABILITATION	Memory Support	アルツハイマーに関連した認知症のケア、ホスピスケア、リハビリテーション、レスパイトケア。	看護師2名、 看護助手10名、 その他	Medicare Medicaid	93床	エレベーターのドアに目立つように絵画が描かれていた。徘徊防止用に手足にセンサーをつけている利用者もいた。車椅子から立ち上がるとアラームがなり危険を知らせるようになっていた。
AEGIS OF REDMOND	Assisted Living	生活援助。家族と共に生活することもできる。 費用：入会金500万円～、1人部屋1ヶ月27～56万円、看護代金25万円。	看護師2名、 看護助手12名、 その他	Medicare Medicaid	48床	入居者平均年齢：84歳 必要な場合は看護師がバイタル測定、服薬管理などを行う。食事、入浴、洗濯などはスタッフが援助。孤独にならずに生活できるようにアクティビティーを定期的に用意。以前の生活を思い出せるように、庭にはバス停や物干しが作られていた。徘徊防止用に一部居住スペースに柵が設けられていたが小鳥、植物、ペットなど以前の生活そのままの環境が保てるように配慮がなされていた。
EMERALD HEIGHTS	Continuing Care Retirement Community	生活援助。家族と共に生活することもできる。 費用：入会金約3000万円、1人部屋1ヶ月40万円～。	約250名	住宅基金、 地域や利用者からの寄付	464名	入所者年齢：62歳以上。 広大な敷地が4エリアに区分され40のアパートメントが点在。家庭生活に近い環境を提供。身体的だけでなく、精神的ケアにも心がけている。病院の雰囲気を感じさせないために医療用語は極力使わないという。

## 1. REGENCY AUBURN REHABILITATION (写真1,2)

REGENCY AUBURN REHABILITATION は、認知症高齢者を対象にメモリーサポートを目的とした中間的療養施設である。施設で日常を過ごす高齢者の方々は、自分たちでコミュニティーを作り、各々が自分の役割を担いながら共同生活を楽しんでいる様子であった。たとえ認知症が進んだ利用者であっても、ゲーム(訪問時にはビンゴゲームを行っていた)では役割を担い、その役割は誰もが侵さないといった様子は、スタッフから利用者への一方通行になりがちな日本流のサポートとは違った印象を受けた。

## 2. AEGIS OF REDMOND (写真3, 4, 5)

AEGIS OF REDMONDは、自立生活が可能で高齢者を対象に、軽度の介護とアクティビティーなどのサービスを提供するALであった。庭にはバス停や洗濯用の物干しが作られ、各部屋の入り口には個々人の思い出が詰まった「メモリーBOX」が飾られていた。また、入所前に飼っていたペット(犬)との入所も可能であり、さらに庭には小鳥のための巣箱が作っておかれるなど、これまでの生活の延長のような雰囲気を感じさせる配慮がなされていた。明るく豪華な共有スペースが施設のいたるところにあり、若かり

し頃に観た映画を観賞できる部屋も用意されている。また、入所者同士が時間を共有できるようなアクティビティーも準備され、入所者同士のコミュニケーションにもスタッフの気配りされたサポートが入る。

認知症による徘徊に対してはエリアを確保し、その中で安全で自由な生活を保障している。高齢者ケアの分野で研究が進んでいる回想療法、動物療法、音楽療法、コラーージュ療法、化粧療法、コミュニケーション療法<sup>6)</sup>も取り入れられ、入所者に自然に受け入れられるよう配慮されている。案内役のチーフディレクターは、この施設が近隣の50以上の同様の施設の中で最高のレベルであり、利用者のごく限られた富裕層であると解説した。



[写真3] エントランス



[写真1] エントランス



[写真4] 敷地内の模擬バス停



[写真2] 入居者とのコミュニケーション



[写真5] 入居者との語り

### 3. EMERALD HEIGHTS (写真6, 7, 8, 9)

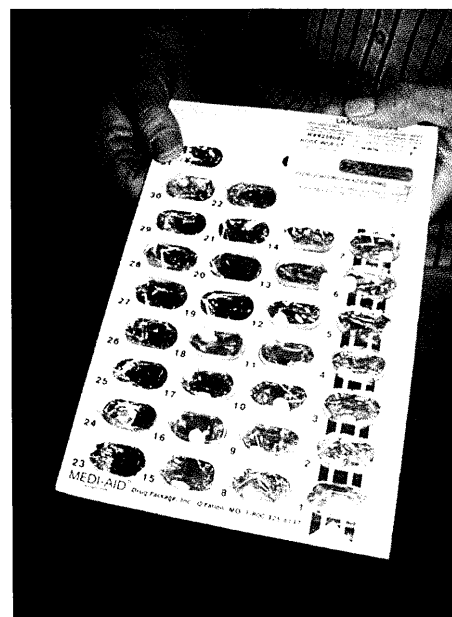
EMERALD HEIGHTSは各種の高齢者用施設を集約したCCRCである。利用者は同一の敷地内で加齢と共に進展する健康状態に合わせ、その時々に必要なサービスが受けられるように設定されていた。

AEGIS OF REDMONDと同様に回想療法、動物療法、音楽療法、コミュニケーション療法などを基にした日常生活のサポートが充実しているという印象を受けた。また、この施設の特徴は、利用者にホテルのレストランと同様の食事を提供する機会を定期的に用意するなど、QOLの維持という視点ではなく、元気なときと同様かあるいはそれ以上のQOLが確保できるような工夫が見られた。また、運動療法では、室内プールやトレーニングジムが完備され、介護予防トレーニングのための機器もシステムティックに活用されていた。

CCRCはRetirement Communityと呼ばれるように、介護の不要な高齢者から医療措置や生活全般の介護を必要とする高齢者まで幅広い利用者の主体的な関わりによって成り立っている。入居費用は比較的高額であるが、一度入居すれば高齢になって必要な介助の質の変化に応じて同一の敷地内で対応できる。また、入居一時金は数年間で償却される日本の制度と異なり、米国の一般的CCRCではまとまった額を施設が借入金としてプールし、利用者が亡くなった後に一部返金する制度や、入居時の費用を抑える代わりに亡くなった後の余剰金は施設に寄付する制度など運営の工夫もされている<sup>7)</sup>。



【写真7】 介護機器の説明



【写真8】 配薬シート



【写真6】 エントランス



【写真9】 リビングスペース

#### 4. シアトルの地域性

シアトル郊外にはマイクロソフト社やボーイング社があり、その関係者や近郊に住む富裕層の家族が多く利用する。したがって、この地域の施設のサービスレベルが全米で一般的とは考えにくい。

2005年度の全米の高齢者施設の入居費用の地域比較調査では、個室利用代金の全国平均が203ドル(約24000円)/日なのに対してシアトルでは246ドル(約29000円)/日という結果が出ている<sup>7)</sup>。平均より約20%割高だが、今回の研修で訪問した3施設の中ひとつAEGIS OF REDMONDは、そのシアトルの中でさらに最高レベルのクオリティーを保っている施設ということだった。

### V. 考 察

今回の研修で日本と同様に超高齢化社会を迎えつつある米国で、高齢者施設がどのような運営を行っているかを見聞することができた。研修で訪れた3施設は、それぞれ理想的な環境が整い、スタッフのスマートな対応や利用者の明るい表情が印象的であった。しかしながら、2005年度の全米の高齢者施設の入居費用の地域比較調査で、シアトル(246ドル)が全米平均(203ドル)より2割以上高額であることや、今回訪問した施設にも富裕層の家族が多く入所していることを考慮すると、これらの施設のサービスレベルが全米で一般的とは考えにくい。米国でナーシングホームの劣悪さが社会問題化したのはそう昔の話ではない<sup>8)</sup>。米国の市民グループの出しているホームページには、全米の高齢者施設で過去にどのくらいの障害・暴力事件が起きたか施設ごとに集計したものもある<sup>9)</sup>。それらを見ると、今回見学したことは表面的で、まだ見ることのできない米国の高齢者介護施設の暗部も存在するかもしれない。

しかし、実際に学生たちが目で見て手で触れて交流した高齢者の方々の明るさや威厳のある様子や雰囲気は、真の姿であると感じた。今回の研修で触れた人生の先輩たちの威厳のある言葉やスタッフの真摯な姿勢は、いつまでも学生の心に残るだろう。理論に基づいた各種の療法によって個々の高齢者のQOLの維持を目指すだけでなく、高齢者のコミュニティーを育て総合的な高齢者介護システムの構築を進めている米国の現状は、これからの看護を担っていく学生たちにとって大きな刺激になったと思われる。

### 引用・参考文献

- 1) 大泉啓一郎 他：客員研究員報告書『開発途上国の高齢化を見据えて ～新しい支援・協力への視座～』独立行政法人国際協力機構国際協力総合研修所 2006
- 2) 国際連合広報センターホームページ  
高齢化に関する国際行動計画および高齢者のための国連原則  
<http://www.unic.or.jp/centre/pdf/elderly.pdf>  
閲覧日 2007/10/09
- 3) 米国情勢調査 Income, Poverty, and Health Insurance Coverage in the United States: 2005 U.S. Census Bureau  
<http://www.census.gov/prod/2006pubs/p60-231.pdf#search='The US Bureau of the Census Medicare'> 閲覧日2007/10/11
- 4) U.S. Department of Health & Human Services  
<http://www.cms.hhs.gov/home/medicaid.asp>  
閲覧日 2007/10/11
- 5) 宇都正哲 他：高齢化社会における新たな居住スタイルー米国におけるカレッジリンク型CCRCの展開ーNRIパブリックマネジメントレビュー 2007: July vol.48
- 6) 守本とも子 高齢者施設における認知症患者のための活動療法  
看護学雑誌 2006: 70(3): 233-237
- 7) The MetLife Market Survey of Nursing Home & Home Care Costs :September 2005 MetLife Mature Market Institute
- 8) C. カール・ペグルス著 岡本 祐三訳  
アメリカの老人医療 勁草書房 1980
- 9) U.S. Nursing Home Information & Registry  
<http://memberofthefamily.net/usregistry.htm>  
閲覧日 2007/10/13

Oversea-Training Report in 2007 part II  
— Feature of Management System of Facilities for Seniors in U.S —

International Exchange Committee, Faculty of Nursing

Takeshi KATSUKI<sup>1)</sup>

Takemi WATANABE<sup>1)</sup>

Yayoi AKAMATSU<sup>1)</sup>

Takeshi KOIKE<sup>1)</sup>

Abstract

Overseas training was conducted on the differences and distinctive features of management systems in elderly care facilities in the United States, and an overview is given of the findings obtained through visits to such facilities in that country. The results were as follows : Three facilities that were visited displayed distinctive features reflecting the current situations in those facilities. The three facilities were (1) an intermediate care nursing home providing memory support for elderly dementia patients, (2) an assisted living facility providing light nursing, activities, and other such services for elderly people who are capable of living independently, and (3) a continuing care retirement community (CCRC) that combines the various kinds of facilities for elderly people. The study tour provided insights into the current situation in the United States, which is not seeking simply to maintain quality of life for individual elderly people by means of theory-based treatment, but is working to foster communities of elderly people and build comprehensive extended care systems for them.

---

1) Faculty of Nursing